

自己理解を深め、「なりたい自分」に向けて取り組む児童の育成

—特別活動における「自分発見プログラム」と 「互いのよさを認め合う活動」の実践を通して—

前橋市立上川淵小学校 八木橋 友紀

本研究は、小学校特別活動において「自分発見プログラム」と「互いのよさを認め合う活動」の実践を通して、自己理解を深め、「なりたい自分」に向けて取り組む児童の育成を目指すものである。そのために第5、6学年で以下の実践を行い、結果を検証した。

- 〔1〕児童が自分のよさに気づき、「なりたい自分」を考えたり、そこへ向けて取り組んだりすることができるように、学級活動（3）で「自分発見プログラム」を行った。
- 〔2〕児童が、他者と進んで関わる気持ちをもつことができるように、互いのよさや成長を認め合う活動を定期的に行った。

I 主題設定の理由

AIの台頭や新型コロナウイルスの蔓延に代表されるように、現代の社会は急速かつ複雑な状況変化を遂げている。昨日までの常識が今日は通用しない、ということが今まさに目の前で起こっている。こうした社会状況の中、子供たちが、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通し、自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を身に付けることが求められている。このことから、学習指導要領の改訂において特別活動が「キャリア教育の要」として初めて位置付けられた。これからの複雑で変化の激しい社会を生き抜いていくためには、一人一人の児童が社会の変化に受け身で対処するのではなく、自らのよさや可能性を生かしながら主体的に活動し、自身の成長を生み出して“自分らしい生き方”を実現していくことが必要不可欠であると考えます。

この“自分らしい生き方”というのは、自分だけで作り上げられるものではない。集団の中で多くの人と関わりながら、自分のよさや可能性に気づき、よさを生かして様々な役割を果たしたり、努力を繰り返したりすることで少しずつ成長しながらつくられていくものである。しかし、実際に学校現場で子供たちと接していると、自分のよさに気づかず、自信がもてない児童や、自ら目標を立て、目標達成に向けて考えて行動することが苦手な児童も多い。

これらのことから、自分のよさを生かすという視点をもってどんな自分になりたいかを考え、目標をもつことや、その目標の実現に向けて主体的に活動することが必要であると考えます。また、自分の取組を振り返って自分自身のよさや成長に気づき、次の目標や「なりたい自分」に対する見通しをもつという一連の活動を繰り返すことで、児童は、よさを生かし、主体的に行動できるようになっていくものと考えます。

特別活動では、集団との関わりや実践を通して、互いに認め合い、自分自身のよさや可能性に気付いたり、それを生かしたりする場を効果的に設定することができる。そこで、自分のよさに気づき、それを生かして実践する活動や、児童が互いによさを認め合う活動を取り入れることで、自己理解を深め、「なりたい自分」に向けて取り組む児童を育成することができると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

自己理解を深め、「なりたい自分」に向けて取り組む児童を育てるために、「自分発見プログラム」と「互いのよさを認め合う活動」を取り入れたことが有効であることを、授業実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

小学校特別活動において、以下の2つの手立てを講じることで、自己理解を深め、「なりたい自分」に向けて取り組む児童を育成することができるであろう。

〔手立て1〕 自分発見プログラム

児童が、自分のよさに気付き、「なりたい自分」を考えたり、そこへ向けて取り組んだりすることができるように、学級活動（3）で「自分発見プログラム」を行う。

〔手立て2〕 互いのよさを認め合う活動

児童が、他者と進んで関わる気持ちをもつことができるように、定期的に互いのよさや成長に気付くための活動を行う。

なお、〔手立て2〕は〔手立て1〕の学習にも活用し、〔手立て1〕の成果をより高めていけるようにする。

IV 研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 「自己理解を深め、『なりたい自分』に向けて取り組む児童」とは

本研究では、特別活動で育成すべき三つの視点のうち、「自己実現」に着目して研究を行った。学習指導要領（平成29年告示）解説特別活動編（以下、「学習指導要領解説」という。）では、特別活動における「自己実現」とは「集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする視点」と示されている。また、自己実現に必要な資質・能力は「自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力、自己の在り方や生き方を考え設計する力など、集団の中において個々人が共通して当面する現在及び将来に関わる課題を考察する中で育まれると考えられる」とある。このことから自己実現を図っていくためには、集団の中で自分のよさを知り、それを生かす力を育てていくことが必要であることが分かる。

そこで、本研究では「自己理解を深め、『なりたい自分』に向けて取り組む児童」の姿を、“自分のよさに気付き、よさを生かしたり伸ばしたりしながら、一步先の未来の自分がどうありたいかを見据えた上で、自分にできることを考え、実践したり振り返ったりする姿”と捉える。

(2) 自分発見プログラム

今回の学習指導要領の改訂における大きな変更点として挙げられるのが、学級活動に（3）「一人一人のキャリア形成と自己実現」が新たに位置付けられたことだ。学習指導要領解説では学級活動における「キャリア形成」を「社会の中で自分の役割を果たしながら、自

分らしい生き方を実現していくための働きかけ、その連なりや積み重ね」としている。小学校段階でのキャリア形成で児童にとって大切なのは、職業観や将来に向けての明確なビジョンをもつことに固執するのではなく、「一歩先の未来の自分がどうありたいかを考え、経験を重ねる」という視点をもつことだと考える。本研究ではこの「一歩先の未来の自分」を「なりたい自分」と定義する。「なりたい自分」に向けて経験を積み重ね、成長していくことを「キャリア形成を図ること」と捉えた。学習指導要領解説には、キャリア形成を図るために必要な資質・能力として、以下の三点が挙げられている。

- 働くことや学ぶことの意義を理解するとともに、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要なことを理解し、行動の在り方を身に付けるようにする。
- 自己の生活や学習の課題について考え、自己への理解を深め、よりよく生きるための課題を見だし、解決のために話し合って意思決定し、自己のよさを生かしたり、他者と協力したりして、主体的に活動することができるようにする。
- 現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標を立て、自己のよさを生かし、他者と協働して目標の達成を目指しながら主体的に行動しようとする態度を養う。

児童がこれらの資質・能力を身に付けていくためには、段階を追う必要があると考えた(表1)。

表1 キャリア形成を図るための3つの段階

1	今の自分について知ること。	(自己理解)
2	これからの学びや生き方に見通しをもち、自分に合った目標を立てること。	(「なりたい自分」の設定)
3	自己のよさを生かして活動すること。 また、振り返ってこれからの自分につなげること。	(実践・振り返り)

それぞれの段階で自分と向き合うことで自己理解が深まっていくと共に、自分のよさを生かして主体的に活動する力が高まっていくものと考えた。この三つの段階に沿って一連の学習をした後、様々な題材で同様の実践を繰り返すことで、児童は自分のよさや成長などに気付きながらキャリア形成を図り、研究主題で目指す児童像に迫っていくことができると考えた。この三つの段階を「児童の自己理解を深める三つのステップ」として構成し

表2 「自分発見プログラム」

	ステップ	学習の目的(めあて)	「自分発見」している児童の姿
自分発見プログラム	ステップ1 自分のよさを知る	・ 他者を介して自分のよさについて知る。	・ 自分にもよさがあるんだな。 ・ 友達から教えてもらって、今までは気付いていなかった自分のよさがわかったぞ。
	ステップ2 よさを生かして「なりたい自分」を設定する	・ 自己理解を基にして、自分のよさを生かし、「なりたい自分」を意思決定する。 ・ 「なりたい自分」の実現に向けて行動目標を設定し、今後の見通しをもつ。	・ 自分のよさは生かすことができるんだな。 ・ よさを生かして、これからどう成長したいか考えて「なりたい自分」を決められたぞ。 ・ 「なりたい自分」に向けて、今から頑張ることを考えられたぞ。
	ステップ3 よさを生かして実践する	・ よさを生かして実践する。 ・ 振り返りをして、自分のよさや成長に気付く。 ・ 目標の再設定を行う。 ・ よさや成長を今後にも生かす気持ちをもつ。	・ 「なりたい自分」に向けて、よさを生かして取り組もう。 ・ 努力を続けることができているな。 ・ よさを生かして「なりたい自分」に近づくことができたぞ。 ・ 自分のよさや成長が分かったぞ。 ・ 目標をレベルアップさせるぞ。 ・ 今回のよさや成長を、これからも生かしたいな。

た学習活動が「自分発見プログラム」である(表2)。

なお、「自分発見プログラム」の学習を通して、児童がよさに気付くだけでなく、「よさを生かす」という視点をもつことができるように指導する。そうすることで、本実践以降で扱う題材でも「よさを生かす」という視点を児童自身が汎用的に使うことができるようになると考えられる。例えば、「よさを生かして、自分には何ができるか」「よさを生か

して自分はどうなりたいか」などと考えることができるようになるということである。また、ステップ3（実践・振り返り）の流れや、その際に活用するワークシート（自分発見シート）は、以後扱う題材でも汎用的に使っていくことができるよう作成する。

(3) 互いのよさを認め合う活動

本研究における児童の姿をマズローの欲求五段階説（図1）と関連付けて考えた。マズローの唱える「自己実現欲求」の段階における児童の姿を、本研究では「なりたい自分」に向けて取り組む児童の姿と捉えると、その実現のためには、まず、進んで他者と関わり、安心感や所属感をもって集団で過ごすこと（所属と愛の欲求）が前提となる。その上で互い

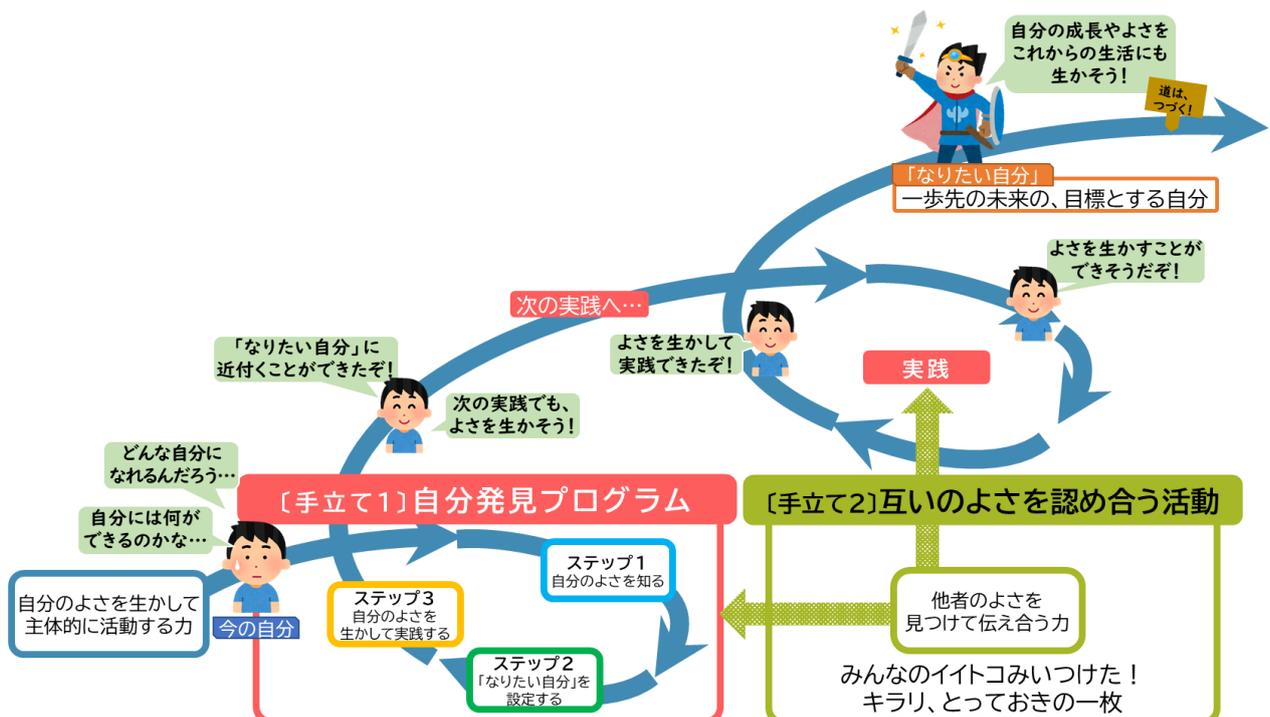


図1 マズローの欲求五段階説

のがんばりやよさを認め合うことで、自分自身を振り返って自分のよさを自覚することができ（承認欲求）、自信をもち、自分で考え、自ら行動できるようになっていく（自己実現欲求）という段階が考えられる。つまり、自己実現を図るには、進んで他者と関わり、互いのがんばりやよさを認め合って自己理解を図ることが不可欠であると考えられる。言い換えれば、自己理解は、他者理解なしには、成し得ない。他者から認められ、価値付けられることで、自己理解を深めることができると思う。

そこで、児童が他者と進んで関わる気持ちをもつことができるように、朝学習などで定期的に互いのよさや成長を認め合う活動を行う。この活動を通して他者理解や他者を介した自己理解を図ることで、〔手立て1〕の成果をより高めていくことができると考えられる。そのため、〔手立て1〕の学習においてもこれらの活動を意図的に行っていくこととする。

2 研究構想図



V 実践の概要

1 実践計画

対象	研究協力校 上川淵小学校 5年生 54名 6年生 40名
期間	令和2年10～11月（特別活動3時間、朝学活、日常の活動）
題材	学級活動（3）ア 自分発見プログラム 学級活動（3）イ そうじのスペシャリストになろう
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童自身が自己理解を図り、「なりたい自分」を考えることができる。 ・「なりたい自分」に向けて、行動目標を意思決定し、実践できる。 ・自己のよさを生かしながら他者と協働し、主体的に実践・行動することで、自他のよさや自分の成長に気付くことができる。

2 指導計画

題材	ステップ	学習過程	実践内容	実践時間 (実施期間)	主な学習活動
自分発見プログラム	1	本時1	自分のイトコ、みいつけた！	学級活動	・友達と「イトコみいつけた」を行い、それを基に改めて自分のよさに気付く。
	2	本時2	「なりたい自分」を見つけよう	学級活動	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさは、様々な場面で色々な生かし方ができることを知る。 ・「なりたい自分」を意思決定する。 ・「なりたい自分」に向けて、行動目標を立てる。
	3	事後1	実践(前半)	1週間	・行動目標を実践する。
		事後2	中間振り返り	朝学習	<ul style="list-style-type: none"> ・中間振り返りを行い、自分のよさや成長を自覚すると共に、目標の再設定を行う。 ・友達とよさを認め合ったり、後半の取組がよりよいものになるようアドバイスし合ったりする。
		事後3	実践(後半)	1週間	・中間振り返りを経て再設定した目標を意識して実践する。
事後4	最終振り返り	朝学習	<ul style="list-style-type: none"> ・最終振り返りを行い、自分のよさや成長を自覚すると共に、これまでの取組を継続したり、今後の活動につなげたりできるようにする。 		



「自分発見プログラム」を生かした実践

題材	学習過程	実践内容	実践時間 (実施期間)	主な学習活動
そうじのスペシャリストになろう	事前	アンケートの実施	朝学習	・清掃活動に関するアンケートを行う。
	本時	そうじのスペシャリストになろう	学級活動	<ul style="list-style-type: none"> ・よさを掃除の場面でどのように生かすことができるのか考え、話し合う。 ・グループで意見交換し「そうじのスペシャリスト」に向けてどのよさを生かして行動するか、一人一人が意思決定する。 ・「そうじのスペシャリスト」に向けて、行動目標を立てる。
	事後1	実践(前半)	1週間	・行動目標を実践する。
	事後2	中間振り返り	朝学習	<ul style="list-style-type: none"> ・中間振り返りを行い、自分のよさや成長を自覚すると共に、目標の再設定を行う。 ・友達とよさを認め合ったり、後半の取組がよりよいものになるようアドバイスし合ったりする。
	事後3	実践(後半)	1週間	・中間振り返りを経て再設定した目標を意識して実践する。
事後4	最終振り返り	朝学習	<ul style="list-style-type: none"> ・最終振り返りを行い、自分のよさや成長を自覚すると共に、これまでの取組を継続したり、今後の活動につなげたりできるようにする。 	

3 検証計画

検証の視点	検証の方法
<p>〔手立て1〕 自分発見プログラム 「自分発見プログラム」を行うことで、自分のよさや成長に気付いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケート（事前・事後） ○C&S（事前・事後） ○自分発見プログラム BOOK ○自分発見シート
<p>〔手立て2〕 互いのよさを認め合う活動 「互いのよさを認め合う活動」を定期的実践することで、互いのよさや成長に気付き、他者と進んで関わる気持ちをもとうとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返りシート ○抽出児童の観察 ○「みんなのイトコみいつけた」の記録

4 実践

(1) 〔手立て1〕 自分発見プログラム

ア 実践内容

○ ステップ1 自分のよさを知る

ステップ1の学習は、「よさの一覧表」（図2）と〔手立て2〕「イトコみいつけた」を活用して、児童が気付いていなかった自分のよさを知るために行った。

まず児童は「自分ってどんな人かな？」と考えながら、よさの一覧表から自分に当てはまるものを選んだ。よさの一覧表とは、キャリア教育で育成する「基礎的・汎用的能力」を児童向けの言葉に直して、一覧にしたものである。児童がこの一覧表を活用して自覚している自分のよさを確認できるようにした。

たよりになる	聞き上手	話し上手	誰とでも仲良くなる	人の気持ちわかる
協力的	面倒見がよい	親切	あきらめない	前向き
集中力がある	くよくよしない	何にでも興味がある	がまん強い	最後までやりぬく
責任感がある	何にでもチャレンジできる	自分で決められる	よく気が付く	きちんとしている
行動力がある	やさしい	すなお	慎重	負けず嫌い
元気がいい	明るい	おだやか	手先が器用	頭がいい
がんばりや	勇気がある	思いやりがある	堂々としている	たくましい
しっかり者	まじめ	正直	さっぱりしている	おもしろい

図2 よさの一覧表

その上で、複数の友達と互いのよさを見付け合う活動「イトコみつけた」を行い、友達のよさやそのよさを見付けたときのエピソード、素敵だなと思うところを短い手紙のように記入した（次頁図5）。

最後に、この活動で友達が教えてくれた内容を基に、自分のよさを改めて捉え直すことで、児童が他者を介した自己理解をできるようにした。

○ ステップ2 よさを生かして「なりたい自分」を設定する

ステップ2の学習は、児童が自分のよさを生かして、これからどんな自分に成長していきたいかを考えるために行った。ここでは、よさの生かし方を学ぶことで、よさを生かすという視点をもって「なりたい自分」を設定できるようにした。

将来の夢やなりたい職業などの遠い未来ではなく、「次の学年になったときの自分」「明日の自分」のように、一歩先の未来の自分の姿を思い浮かべて学習を進めることができるよう、これまでの自己理解を基に、これからの自分も努力し、成長できることを確認した。その上で、自分がこれから成長するために、生かしたり伸ばしたりしていきたいと思うよさを意思決定した。

次に、学校生活の様々な「場面」を想定し、その「よさ」を生かすとどんな「活躍」ができるか、ウェビングマップを広げながら考えた（図3）。この考え方を「よさ」×「場面」＝「活躍」という言葉の式で表すことで、児童が「よさ」は様々な「場面」で生かすことができることを捉えられるようにした。また、ウェビングマップを広げる際は、友達と相談する時間を設けることで、他者の視点を取り入れながら様々な場面や活躍を考えられるようにした。児童は、ウェビングマップを広げることで、一歩先の未来の自分を具体的に想像することができ、「なりたい自分」の姿を明確に思い描くことができるようにした。

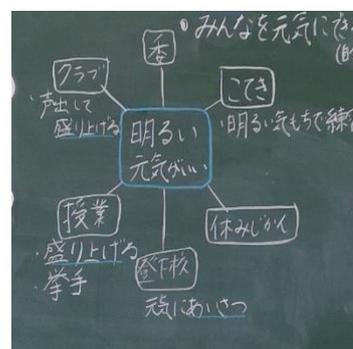


図3 よさの生かし方を考えた児童のウェビングマップ

最後に、「なりたい自分」に近付くために取り組む行動目標を立てた。

○ ステップ3 よさを生かして実践する

ステップ3の学習は、児童が立てた行動目標を二週間実践し、振り返ることで自分のよさや成長を自覚するために行った。ここでは「自分発見シート(p25 資料3)」を活用し、「中間振り返り・最終振り返り」を行うことで学習を進めた。

自分発見シートは実践を記録するためのワークシートである。実践期間中は毎日、シールに実践したことを記入し、自分発見シートに貼るようにした。ペアを組んだ友達と互いに実践の様子を見合い、相手のがんばりや成長を記録したシールは、振り返りの際に交換して相手に渡し、毎日の記録と同様に自分発見シートに貼るようにした。自分発見シート

を活用することで、自分のがんばりや成長の積み重ねを実感できるようにした。

二週間の実践のうち、一週目を終えたところで「中間振り返り」、全実践終了後に「最終振り返り」を行った。振り返りの目的は、実践から自分のよさや成長を自覚することである。児童は、自分発見シートを活用し、こ



図4 目標の再設定

れまでの記録や友達からのメッセージを読み返すことで、自分のがんばりや成長に気付くことができた。また、最初に立てた「なりたい自分」と自分発見シートの実践記録（以下「実践記録」という。）を照らし合わせることで、自分の課題にも気付くことができた。中間振り返りでは自分のがんばりや成長に気付くと共に、後半の取組に向けて目標を再設定する学習活動を行った。目標の再設定をする際は「新たに」（違う場面や、さらに工夫できることを考える）と「今度こそ」（前半の取組で達成度が低かった取り組みを改善する）という二つの視点で見直した（図4）。そのうち、「今度こそ」に関しては、後半の取組をよりよくするための具体的な行動を考えるために、ペアの児童と相談する時間を設けた。最終振り返りでは、中間振り返りと同様に自分のがんばりや成長に気付くと共に、その成長や、自分のよさをこれからどのように生かしていきたいかを考えられるようにした。

イ A児の姿から捉えた実践内容

○ ステップ1 自分のよさを知る

〔手立て1〕「自分発見プログラム」を通して児童がどのように自己理解を深め、「なりたい自分」に向けて取り組んでいたのかを、A児の姿から考察していく。

自分発見プログラムの導入として、自分自身について振り返り、「自分は、自分のことを意外と知らない」ということを児童が自覚した上で、ステップ1の学習を行った。

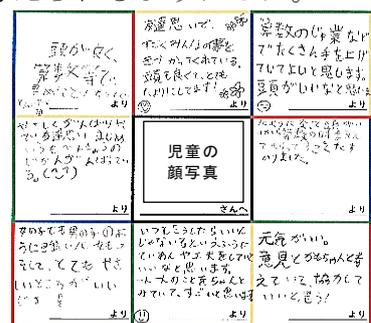


図5 友達からの記述が入ったA児の「イトコみつけた」

初めの「自分ってどんな人かな？」と考える段階では、A児は、「自分はどんな人か、まだ分からない。」と答えていた。次に、図2「よさの一覧表」(p11) から自分にあてはまるものを選んだが、A児は「前向き」と「明るい」の二つしか丸を付けることができなかった。

その後行った「イトコみつけた」(図5)で、友達が教えてくれた内容を基に自分のよさを改めて捉え直したところ、A児の丸の数は11個に増えた(図6)。自分が選んでいた「明るい」というよさは、友達メッセージの中にもあったため、二重で丸を付けていた。

たよりになる	聞き上手	話し上手	誰とも仲良くできる	人の気持ちがわかる	たよりになる	聞き上手	話し上手	誰とも仲良くできる	人の気持ちがわかる
協力的	協調性が高い	親切	あきらめない	前向き	協力的	協調性が高い	親切	あきらめない	前向き
集中力がある	くよくよしない	何にでも興味がある	がまん強い	最後までやりぬく	集中力がある	くよくよしない	何にでも興味がある	がまん強い	最後までやりぬく
責任感がある	何にでもチャレンジできる	自分で決められる	よく気がつく	きちんとしている	責任感がある	何にでもチャレンジできる	自分で決められる	よく気がつく	きちんとしている
行動力がある	やさしい	すなお	慎重	負けず嫌い	行動力がある	やさしい	すなお	慎重	負けず嫌い
元気がいい	明るい	おだやか	手先が器用	頭がいい	元気がいい	明るい	おだやか	手先が器用	頭がいい
がんばりや	勇気がある	思いやりがある	堂々としている	たくましい	がんばりや	勇気がある	思いやりがある	堂々としている	たくましい
しっかり者	まじめ	正直	さっぱりしている	おもしろい	しっかり者	まじめ	正直	さっぱりしている	おもしろい

図6 A児のよさの一覧表の変化

振り返りでは、「自分では思っていなかったことを書いてもらって、自分のよさに気付いた。周りの人の思いが分かってうれしい。」という感想を書いていた。このことから、他者を介して自分を捉え直すことで、自分では気付いていなかったよさに気付くことができたと考えられる。また、自分が元々認識していたよさは、友達も認めてくれていたことに気

付くこともできたと考えられる。

○ ステップ2 よさを生かして「なりたい自分」を設定する

A児は、これから生かしたり伸ばしたりしたいよさを選ぶ場面で、「よさの一覧表」を見ながら「明るい」（始めから自分で選んでいたよさ）と「協力的」（友達から教えてもらったよさ）の二つのよさを選択した。その理由を「色々な人と協力して、（今後行われる行事などで）みんなをまとめられるといいなと思ったから。」としていたことから、A児が「高学年として自分をどう成長させたいか」を考えようとしていることが分かる。

選んだよさのうち、「協力的」を中心にしてウェビングマップを広げたところ、「授業中」という場面では「意見を出せる」、「クラブ」という場面では「4年生となかよく」等、学級での生活の場面や、学年を超えて多くの人と関わる場面を考えて、よさを生かして活躍する自分の姿を想像することができた（図7）。A児は学級で自分の役割を果たすという視点と、高学年として手本となる姿を目指すという視点から、「なりたい自分」を設定した（図8）。

「よさ」と「場面」を掛け合わせて考えることで、遠い未来の理想像ではなく、一歩先の未来で具体的に自分が活躍している姿を「なりたい自分」として設定することができた。

また、よさの生かし方をウェビングマップで広げたことで、様々な視点から自分を振り返り、これからどう成長していきたいかを考えることができた。このことは、具体的な行動目標（図9）を考えることにもつながった。

○ ステップ3 よさを生かして実践する

A児は、「なりたい自分」に向けて「クラスの子にたくさん話しかける」と「思ったことをすぐ口に出さない」という行動目標を立てた（図9）。具体的な取り組みとして授業中に友達に勉強を教えたり、自分の発言を吟味して友達と楽しく会話したりできたことなどを実践記録に記入していた（図10）。前半の取組を「イトコみつけた こっそりウオッチング編（後述）」で、見ていたペアの友達は、A児を「いろいろなことをがんばられて、早めに（行動）できていた」と評価していた（図11）。これを受けてA児は中間振り返りで目標を再設定するときに、①「自分の仕事を終わらせたなら他の人も手伝えるようになりたい」②「となりのクラスの人たちともあいさつしたい」という目標を立てた（図12）。①は友達の評価から、②は前半でがんばることができていた内容から発展させて考えた目標だと考えられる。また、前

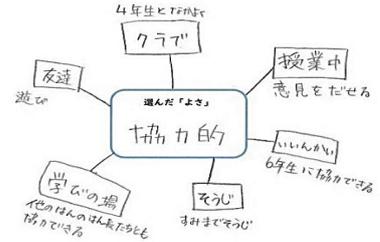


図7 A児のウェビングマップ

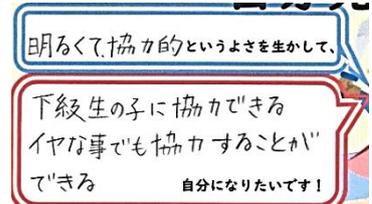


図8 A児の「なりたい自分」

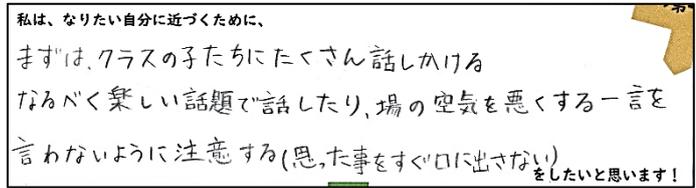


図9 A児の「なりたい自分」に向けた行動目標

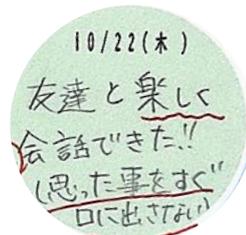


図10 A児の前半の実践記録



図11 A児がもらったこっそりウオッチングシール

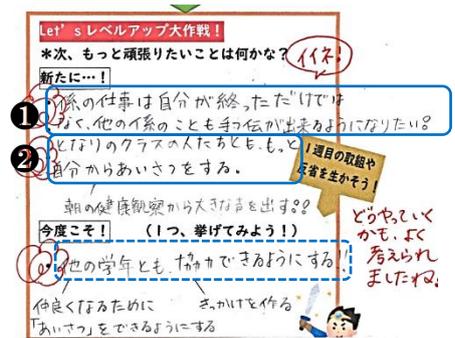


図12 A児の目標の再設定

半の実践記録には他学年と関わった記録がなかったことから、「今度こそ」では「他の学年とも協力できるようにする」という目標を再設定していた（図 12）。

後半の取組では「前半のことを生かしてとなりのクラスの人とあいさつできた」や「みんなで協力してそうじを終わらせた」など、再設定した目標を意識して取り組むことができていた（図 13）。



図 13 A児の後半の実践記録

最終振り返りでは、自分のよさや成長を図 14 のように振り返っていた。「なりたい自分」に向けて立てた行動目標である「声をかける」が達成できたことや、中間振り返りで再設定した「ほかの学年とも協力できるようにする」を委員会の場面で達成できたことなどを、自分の成長と振り返っていることから、「なりたい自分」を意識し、そこへ向けて実践することができたことを自覚していることが分かる。

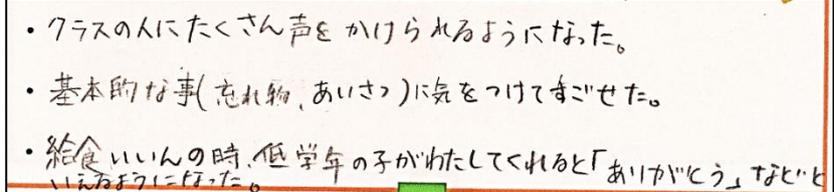


図 14 A児の最終振り返りでの気付き

また、振り返りの最後に「これからの自分へのエール」として書いた「イトコみいつけた 自分編」のカードから、自分なりに「なりたい自分」に近付くことができた達成感を味わうと共に、今後は違う場面でも自分から声をかけたいという新たな目標を立てることができていたことが分かる（図 15）。このことから、最終振り返りを行うことで、新たな学習や生活への意欲や、自己実現への意識を高めていくことにつなげていこうとする気持ちをもつことができたと考えられる。

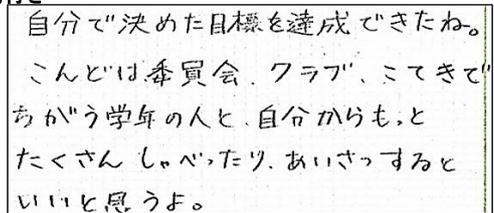


図 15 A児の自分へのエール

また、振り返りの最後に「これからの自分へのエール」として書いた「イトコみいつけた 自分編」のカードから、自分なりに「なりたい自分」に近付くことができた達成感を味わうと共に、今後は違う場面でも自分から声をかけたいという新たな目標を立てることができていたことが分かる（図 15）。このことから、最終振り返りを行うことで、新たな学習や生活への意欲や、自己実現への意識を高めていくことにつなげていこうとする気持ちをもつことができたと考えられる。

ウ A児の姿から捉えた実践の考察

「自分発見プログラム」の全てのプログラムを終えた後に行ったA児の振り返りを図 16 に示す。振り返りでは、自分のよさや成長に気付き、よさを生かして自分がどう成長したのかを実感的に捉えているA児の様子が窺える（図 16 実線部）。このことから、「自分発見プログラム」によって自分自身を肯定的に受け止めながら自己理解を深め、「なりたい自分」に向けて努力できるようになったことが分かる。また、これからの自分の成長につなげていきたいという気持ちや、今後、自分のよさを生かしたいと思う場面を具体的に記していることから、キャリア形成を図りながら「なりたい自分」に向けての取組を継続したいという気持ちをもつことにつながったと考えられる（図 16 点線部）。

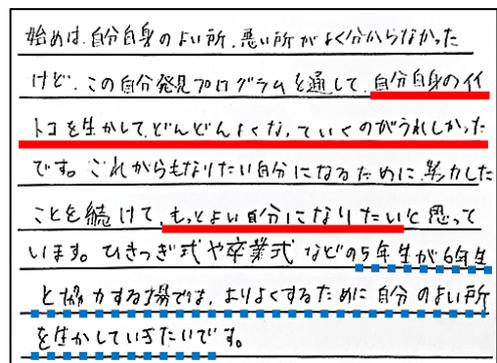


図 16 「自分発見プログラム」すべてのプログラム後のA児の振り返り

(2) [手立て2] 互いのよさを認め合う活動

ア 実践内容

○ みんなのイトコみつけた

本活動は、児童が友達のよさを見付け、それを相手に伝える活動である(図17)。児童は、ペアを組んだ友達のよいところをメモ用紙に記入し、交換した。もらったメモを本人が読んだ後、教室掲示を行った(図18)。本活動では、「みんなのイトコみつけた」を活用して「こっそりウオッチング編」「自分編」も行った。

「こっそりウオッチング編」は、「自分発見プログラム」の実践中に友達が「なりたい自分」に向けてどのように頑張っているのかを見付け、実践後の振り返りでよさを伝え合う活動である。実践中のがんばりや成長を他者から価値付けてもらうことで、相互理解や他者を介した自己理解を図るようにした。「自分編」は、実践終了後に実践を通して気付いた自分のよさや成長を自分でほめる活動である。自分自身を振り返ることで、自分のよさの広がりや深まりを実感的に捉えられるようにした。

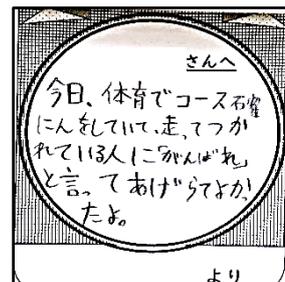


図17 「みんなのイトコみつけた」



図18 教室掲示

○ キラリ、とっておきの一枚

「なりたい自分」に向けて取り組む姿や、みんなのために活動する姿を教師が写真に撮り、廊下に掲示した(図19)。

それぞれの写真にはその行動がどのような価値をもつのかを教師が“キラリポイント”として記入した(図20)。児童が写真と“キラリポイント”を併せて見



図19 キラリとっておきの一枚



図20 キラリポイント

ることで、それぞれの活動の価値を知ると共に、互いのよさに気付いたり、自分の課題に気付いたりするきっかけになるようにした。実践中は、実践の様子を集中的に掲示することで、自分の実践につなげたり、振り返りで生かしたりできるようにした。

イ 実践の考察

○ みんなのイトコみつけた

活動を始めた当初は「書けない」「分からない」という声が児童から上がっていた。児童は友達の行動を意外と気にかけていないことや、友達との関わりに偏りがあることに気付いていた。そこで、普段からみんなのよさを見付けられるように心がけることを提案した。たくさんの友達と関われるように、教師が意図的にペアを組み替えながら、「みんなのイトコみつけた」を繰り返すようにした。また、交換したカードを教室に掲示したことで、自分以外の友達が一人一人のよさをどのように見ているのか知ることができ、書いてある内容を参考に友達の新たなよさに目を向けることができた。友達からもらったカードが増えていくことで、自分を多面的に捉え、新たなよさに気付くこ

表3 「イトコみつけた」に関する事後アンケート

<ul style="list-style-type: none"> ・よさをたくさん見付けられるようになった。 ・友達の様子を細かいところまで見てみるようになった。 ・自分でも「自分は面白い人だ」と分かっていたけれど、人に「面白い」と言われて自信がついた。 ・友達に自分のいいところを教えてもらって、自分ではそう思っていなかったので自分のいいところはここなんだ、とびっくりした気持ちや、自分にもこんないいところがあるんだと安心した気持ちになった。
--

ともつながった。

このように活動を繰り返すことで、児童は、どの友達に対してもよさを見付けて書くことができるようになっていった。事後アンケートには「よさをたくさん見付けられるようになった」「細かい所に目を向けられるようになった」などの記述が見られた（表3）。

以上のことから、「みんなのイイトコみいつけた」を実践したことで、相手のよさを見付け、伝えられるようになったり、友達からよさを伝えてもらうことで、自分のよさを再認識したりできるようになったと考えられる。

○ キラリとっておきの一枚

アンケート結果①にあるように、「キラリとっておきの一枚」を活用することで、99%の児童が友達のがんばりに気付くことができた（図21）。図22は、B児が「そうじのスペシャリストになろう」の実践中に、「キラリとっておきの一枚」を見た感想である。

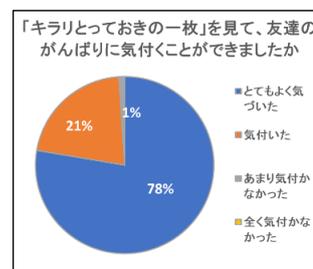


図 21 アンケート結果①

B児は、友達も工夫してがんばっている様子に気付いたこと、協力して取り組みたいと思ったことを記していた。

自分も色々な工夫をしておき、そうじを頑張ると思ったけど、自分でいなくて友達も工夫をして頑張っている事が写真で分かるから、それとみんなと協力したいと思った。

図 22 B児の「キラリとっておきの一枚」を見て感じたこと

これを受けて、「そうじのスペシャリストになろう」の中間振り返りでは自分発見シートと併せて自分の実践を振り返り、協力の大切さに気づき、もっとがんばりたいという気持ちをもつことができた（図23）。後半の取組では、友達と協力することをより意識して掃除に臨み、その取組を見た友達から「こっそりウオッチング編」でがんばりを認めてもらった（図24）。このように、「キラリとっておきの一枚」を活用することで、自分の課題に気付いたり、振り返りで生かしたりできたことが分かる。

いつもそうじをする時はキレイにする事しか考えてなくて、みんなとの協力が、余った時間をどのように使うかとか、全く考えてなかったから、「自分発見シート～その編～」でみんなの協力がどれだけ大切かが分かり、そうじを頑張りたいと思いました！

図 23 B児の中間振り返り

また、事後アンケートから、児童は、他者のよさに気付いたり、他者を認めたりすることができたことが分かる（表4）。自分のがんばりや課題にも気付いた児童や、自分や友達の行動はみんなのために役立っているという、行動の意味や価値を理解できた児童もいた。

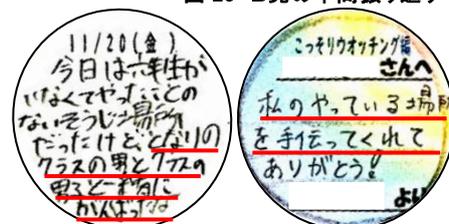


図 24 B児の実践記録

以上のことから、「キラリとっておきの一枚」を活用することで友達のがんばりに気付いたり、自分の課題を見いだしたりできたことが分かる。

表 4 「キラリとっておきの一枚」に関する事後アンケート

- それぞれ自分のよさを生かしてみんなと協力し合いながら自分から行動できていてすごいと思った。
- みんなもしっかり色々がんばっていて、「自分も、もっとがんばろう」と思った。
- 誰も見ていないところでも一人一人が目標を達成しようとしていていいと思った。
- 自分もがんばっていたんだな、ということが分かった。
- どんなことがみんなの役に立つことなのか分かった。
- みんなが他の人のことを考えて行動しているんだなと分かった。

ウ 【手立て1】を支援した【手立て2】についての考察（A児の変容から）

A児は7月実施のC&S調査で、“学級の雰囲気”を示す数値が22だった（7月の学級平均は50.8）。しかし、11月に同様の調査を実施した際、A児の同項目の数値は55に上昇していた（11月の学級平均は58.9）。このことから、A児が徐々に学級での居心地がよいつ感じられるようになったことや、A児にとって安心感や所属感をもって過ごすことができる学級に変化していったということが分かる。実践とのつながりを示す図25の左側のカー

ドは、定期的に行っていた「イトコみつけた」でA児が友達からもらったものである。ここでは、算数の授業中の活躍を見付けてもらっていた。このことを受けて、A児は授業中での

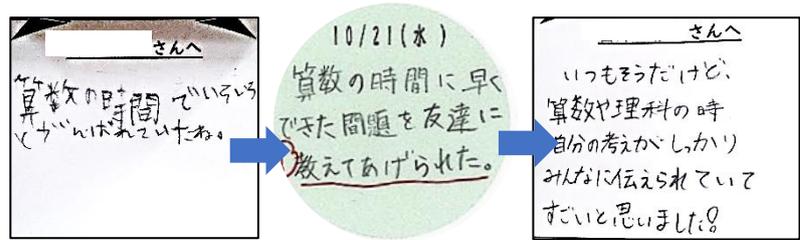


図 25 実践とのつながり

自分の活躍に気付くことができ、実践記録を書くことができた (図 25 中央)。さらに、実践後に行った「みんなのイトコみつけた」で別の児童からもらったカードにも、実践に関連したよさを友達から見付けてもらっていた (図 25 右)。このように、自分のがんばりを複数の友達から認めてもらうことで、A児は自分のよさや成長に気付くと共に、次にながらぶ気持ちをもつことができたと考えられる。また、図 26 は、実践から 2 週間後に行った「イトコみつけた」のカードである。ここに書かれている「明るく話しかけてくれた」という内容は、A児が「なりたい自分」に向けて立てた行動目標であることから、A児は実践後も自分のよさを生かし、「なりたい自分」を意識した行動ができていたということが分かる。

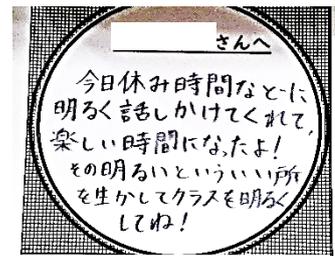


図 26 実践から2週間後の A 児が友達からもらった「イトコみつけた」

以上のことから、〔手立て 2〕を行うことで、学級での居心地をよと感じるようになったと同時に、他者を介した自己理解をすることができるようになったと考えられる。このことが、「なりたい自分」を意識した行動やみんなのための行動を主体的に行う姿につながったと考えられる。

(3) 〔手立て 1〕〔手立て 2〕における考察

ア A 児の姿から捉えた〔手立て 1〕〔手立て 2〕の実践の考察

(題材 そうじのスペシャリストになろう)

自分発見プログラムで学習したよさを生かすという視点と、自分発見シートを活用した実践・振り返りの流れを用いて、「そうじのスペシャリストになろう」の学級活動を行った。

まず、清掃活動の実態についてのアンケート結果から課題を見いだすこととした。次に、課題を解決していけるような“そうじのスペシャリスト”とはどのような人か、全体で考え、その姿を本題材における「なりたい自分」の姿と捉えた。その際、掃除の技術を向上させればよいという視点だけではなく、「学校をよりよくするために」「みんなのために」という他者意識をもつことで、働くことの意義を理解できるように指導した。その後、自分発見プログラムで学習した様々なよさが清掃活動の場面でどのように生かせるかを考え、“そうじのスペシャリスト”になるために、どのような活躍ができるか話し合った。最後に、自分で生かしたいと思うよさを決め、そのよさを生かした行動目標を、話合いの内容を参考にしながら意思決定した。“そうじのスペシャリスト”に向けて立てた行動目標を意識して 2 週間の清掃活動に取り組んだ。中間振り返りで目標を再設定した後、最終振り返りを行った。

A 児は、本題材においても「協力的」というよさを選び、実践していた。「自分発見プログラム」終了時の A 児の振り返り (p14 図 16 点線部) に表出されている通り、A 児は自分発見プログラムを通して「協力的」というよさの価値をより深く理解し、自分を成長させ

ていくために活用したい気持ちが高まったためと考えられる。行動目標は、「効率よくできるように順番を考える」と「みんなが楽しくそうじができるように協力する」ことだった。A児は自分の分担の掃除をきちんと行うことはもちろん、それが終わると友達に協力することができるようになっていった(図 27)。また、協力することで効率よく掃除することができ、残った時間を使って、「まだ時間があるから、ここも追加でやろう」というように、友達に声をかけて主体的に取り組んでいる様子が見られた。

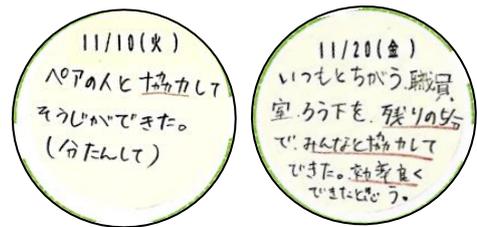


図 27 「そうじのスペシャリストになろう」におけるA児の実践記録

実践を全て終えた後のA児の振り返りには、「今までは(掃除の時間において)、みんなと協力してやることを心がけていなかったが、ただきれいにするだけでなく、みんなと協力してやれるよう意識できた」と書かれていた。このことから、A児は自分の「協力的」というよさを「みんなのため」に生かすという意識をもてたことで、主体的に活動できるようになったと考えられる。

イ 【手立て1】【手立て2】を合わせた考察

学校生活の中で【手立て2】を定期的に行うことで、児童が日常的に他者のよさを見付けたり、他者から自分のよさを伝えてもらったりする機会が増えた。C&S調査の事前・事後を比較すると、学級の雰囲気を示す数値に上昇が見られたことから、【手立て2】を行ったことが、学級のよい雰囲気を醸成することにつながったと考えられる。また、事前・事後アンケート「振り返りの際に成長を実感できたきっかけはどれですか」では、93%の児童が「友達からもらったこっそりウオッチングシールを読んだとき」と回答した。また、「友達とアドバイスし合ったとき」と回答した児童が70%いたことから、他者と進んで関わり、他者から認めてもらうことが、児童が肯定的に自己理解を深め、「なりたい自分」に向けて取り組むことにつながったのではないかと考えられる。

VI 研究のまとめ

1 研究の成果

(1) 【手立て1】の有効性について

ステップ1では、C児とアンケート結果を通して考察していく。C児は、よさの一覧表に丸を付ける際、初めは4つに丸を付けた。しかし、「イトコみつけた」を行った後は12個に丸がつき、笑顔になる様子が確認できた。中でも多くの友達から「おもしろい」というよさを認めてもらったため、「おもしろい」の欄には枠を越えて丸が付いた(図 28)。C児は振り返りに「新しい自分に出会えた気がして、これからはがんばろうと思いました」と記述していた(図 29)。このことからステップ1を通して、他者を介した自分のよさに気付

たよりになる	聞き上手	話し上手	誰とでも仲良くできる	人の気持ちがわかる
協力的	協調性が高い	親切	あきらめない	前向き
集中力がある	くよくよしない	何にでも興味がある	がまん強い	最後までやりぬく
責任感がある	何にでもチャレンジできる	自分で決められる	よく気が付く	きちんとしている
行動力がある	やさしい	すなお	慎重	負けずばらしい
元気がいい	明るい	おだやか	手先が器用	頭がいい
がんばりや	勇気がある	思いやりがある	堂々としている	たくましい
しっかり者	まじめ	正直	さっぱりしている	おもしろい

図 28 ステップ1学習後のC児の「よさの一覧表」

自分で思っていた戸外にすべし丸がついて新しい自分に出会えた気がして、これからはがんばろうと思いました。

図 29 C児の学習後の振り返り

くことができ、その気づきが主体的な活動や自分を肯定的に捉える気持ちにつながったことが分かる。

ステップ1での全児童の振り返りを考察すると、肯定的に自己理解をしている児童は96.8%に及んだ。また、この段階で「自分のよさを大切にしたい」「これからがんばろうと思った」など、前向きな気持ちをもつことができていた児童も61%いたことから、ステップ1でよさを知ることは、肯定的に自己理解を深め、前向きな気持ちをもつことに有効であったと考えられる。

ステップ2では、D児とアンケート結果、児童の振り返りを通して考察していく。事前アンケートで「目標を決めるときにどんなことを意識しますか」と質問したところ（複数回答可、無回答可）、多かった回答は、「自分ができないことを目標にする」「自分ができそうなことを目標にする」だった。この実態から、児童は自分のよさを振り返ったり、自分をどう成長させたいか考えたりせずに目標を決める傾向があったことが分かる。

ステップ2での児童の振り返りからは、児童が「よさの生かし方」を理解することができたことやこれからよさを生かしていきたいという思いをもつことができたことが分かる（図30）。また、D児は事前アンケート「目標を立てるときにどんなことを意識しますか」に対し、「できそうなことを目標にする」と回答していた。しかし今回、よさを生かすという視点をもって「なりたい自分」を設定したことで、D児は、「今まで考えたことがないような目標を立て、そこへ向けて努力したい」と意欲を高めていた（図31）。自分発見プログラムを全て終えた後の振り返りでも、「(これからも)自分のよいところを見つけて、どんどん次につなげていきたいと思った。」と記していた。アンケート結果②「あなたは学級活動で決めた目標に向けてがんばることができましたか」では、有意差が認められた（図32）。これは、児童がただ何となく目標を決めるのではなく、よさを生かすという視点をもって「なりたい自分」を設定したことで、自分の目指す姿を明確にすることができ、その後の実践でも目標に向けてがんばろうとする前向きな気持ちをもって取り組むことができたためであると考えられる。

振り返り ★今日の授業の感想を書きましょう。
今日の授業で自分の良さをどうゆう場面で使えばいいか分かった。これでこれから生かしていきたい。

振り返り ★今日の授業の感想を書きましょう。
今回の授業で、自分の良さをあと、生かしていきたいと思った。これから、明るく楽しく過ごしたい。

図30 ステップ2での振り返り

振り返り ★今日の授業の感想を書きましょう。
今まで考えたことがないような目標が決まって、目標に向けて、もっと努力していきたい。

図31 ステップ2におけるD児の振り返り

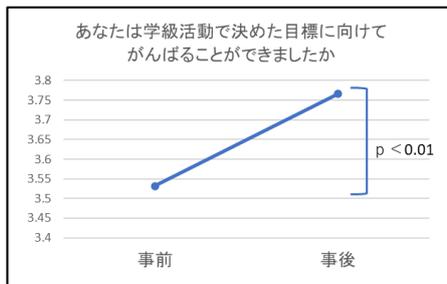


図32 アンケート結果②

以上のことから、ステップ2でのよさを生かして「なりたい自分」を設定したことは、これから自分をどう成長させたいかを考え、それに向けて取り組もうとする前向きな気持ちをもつことに有効であったと考えられる。

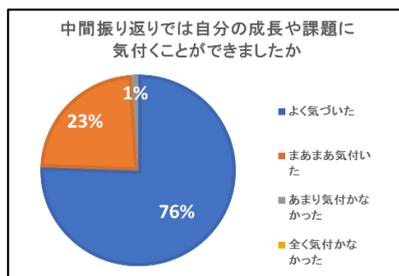


図33 アンケート結果③

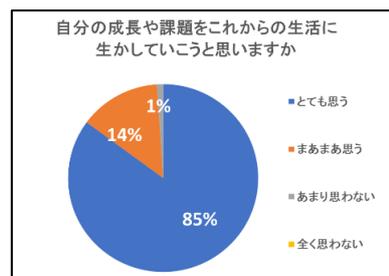


図34 アンケート結果④

ステップ3は、E児とアンケート結果、振り返りを通して考察していく。アンケート結果③から、ステップ3で中間振り返りをしたことにより、99%の児童が自分の成長や課題に気付くことができたことが分かる（図33）。アンケート結果④からも、最終振り返りをしたことで99%の児童が、自分の成長や課題をこれからに生かしていこうと思うことができたことが分かる（図34）。また、アンケート結果⑤「あなたは自分でやろうと決めて取り組んだことを振り返ったり次の取組につなげたりしていますか」でも、有意差が認められた（図35）。このことから、ステップ3でよさを生かした実践を行う際に、振り返りを行うことが有効であったこと、またその振り返りに自分発見シートを活用したことで、自分のよさや成長に気付くことができたことが分かる。「毎日、目に見えるように実践を記録することで、自分がどんながんばりをしてきたか見返すことができた。」という児童の振り返りからも、自分発見シートが振り返りの効果を高めることにつながったと考えられる。

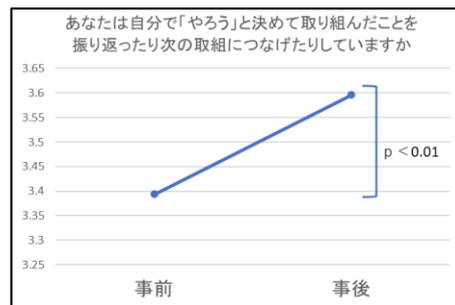


図35 アンケート結果⑤

有意差が認められた（図35）。このことから、ステップ3でよさを生かした実践を行う際に、振り返りを行うことが有効であったこと、またその振り返りに自分発見シートを活用したことで、自分のよさや成長に気付くことができたことが分かる。「毎日、目に見えるように実践を記録することで、自分がどんながんばりをしてきたか見返すことができた。」という児童の振り返りからも、自分発見シートが振り返りの効果を高めることにつながったと考えられる。

E児は、「自分発見プログラム」を通して自分のよさに気付いたり、よさを活動に生かしたりすることができたと振り返っている（図36実線部）。さらに、「なりたい自分」に近付くためには努力し、成長していくことが必要であるということに気付き、今後も努力を継続して「なりたい自分」になれるようにがんばりたいという気持ちをもつことができていた（図36点線部）。このように、本研究では、自分のよさに気付き、「なりたい自分」を設定するだけでなく、そこへ向けて実践し、振り返る活動までを、順序性を大事にしながらかつ一連の活動として行ったことで、児童は、自分の成長や課題に気付き今後の活動につないでいこうとする気持ちを抱くことができた。このことから〔手立て1〕が有効であったと考える。

ほくはこの授業が始まてから自分のいいところを
いっばいあるおぼりました。そして、そのいいところを
生かして活動してみた。そのいいところをいっばい活
動して生かせるようになってこれからはいろいろな
いいところを生かして活動していきたいと思
いました。なりたい自分には努力して成長して
かなければなりません。だからこれからも努力して
成長してなりたい自分になれるようにがんば
ります。

図36 「自分発見プログラム」すべてのプログラム後のE児の振り返り

(2) 〔手立て2〕の有効性について

アンケート結果⑥の「互いのよさを認め合う活動」に関する質問では、事前・事後で結果が向上し、多くの項目で有意差が認められた（表5）。

このことから、〔手立て2〕を定期的に行うことで、児童は、これまで気付かなかった自分のよさに気付いたり、友達のよさを見付けたりできるようになったことが分かる。他者を肯定的に捉えたり、他者理解を深めたりすることで、互いのよさを

表5 アンケート結果⑥

	互いのよさを認める活動に関するアンケート結果					
	事前		事後		t(df=93)	t検定
	平均	SD	平均	SD		
● あなたは、自分が好きですか	2.85	0.6	2.95	0.57	+	
● 自分には、よいところがあると思いますか	3.46	0.5	3.61	0.38	**	
● あなたは、友達や先生など周りの人の役に立っていると思いますか	3.17	0.65	3.32	0.43	*	
● あなたは学校で、ほめられたり認められたりして嬉しかったことはありますか	3.46	0.63	3.76	0.26	**	
● あなたは、友達のよいところを見つけることができますか	3.71	0.29	3.79	0.18	*	

**: $p < .01$, *: $p < .05$, +: $p < .1$

主体的に見付け、それを伝え合う力を高めることができたと考えられる。

また、互いのよさを主体的に見付け、伝え合えるようになったことが、学級のあたたかい雰囲気づくりにつながったと考えられる。児童は安心感や所属感を味わえるあたたかい雰囲気の中で過ごすことで、更に進んで他者のよさを見付け、認め合うことができるようになり、相互理解を図ることができた。このことが、他者からほめられたり認められたりしていると感じることや、周りの人の役に立っていると実感することにつながったと考えられる。

このように、〔手立て2〕を活用することで、互いに認め合う力を高めることができたことから、〔手立て2〕が有効であったと考える。

(3) 研究を通して

本実践では、児童にいきなり「なりたい自分を考えましょう」と投げかけるのではなく、自分のよさを中心に自己理解を深めながら「なりたい自分」を考え、そこに向けて取り組むことができるように学習を進めてきた。自分の課題や苦手なことを克服するという視点ではなく、「よさを生かしてなりたい自分に近付こう」という意識を常にもてるように指導することで、児童は自分自身を肯定的に捉え、前向きに実践に臨むことができた。よさを生かして実践することが、自分自身の課題に気付いたり、今後の目標をもったりすることにつながることを本実践を通して分かった。自らよさや課題に気付いたからこそ、自分で考え、自ら行動しようとする気持ちが生まれ、主体的な実践につながったと考えられる。

また、学級の中で、互いのよさを認め合う関係が築かれていったことで、自分を肯定的に捉えたり自分の行動が周りの人の役に立っていると感じられたりするようになった。自分のがんばりを他者から認められる経験を通して、自分のよさや可能性を客観的に捉えることができ、自信をもったり自分の行動に価値を見いだしたりすることにつながったと考えられる。また、友達のよさを見付けることで「自分もやってみよう」「自分もがんばりたいな」など、これからの自分の生活につなげようとする意欲を高めることもできた。

以上のように、互いのよさを認め合う活動を取り入れたことで、児童は他者理解をしたり、他者を介した自己理解をしたりすることができ、集団の中で「他者と協働する」「他者を介する」など他者意識をもって自分発見プログラムの学習を進めることができた。このことにより、児童は、「自分から」と「他者から」の両方向から自分のよさを知り、そのよさを生かして集団の中で実践することができた。また、集団の中で実践し、振り返ることで、よさや成長を自覚することができた。このように、多様な他者と関わりながら学習を進めたことは、自己実現に向けての一助となったと考えられる。

2 今後の課題

キャリア形成をよりよく図っていくことができるよう、「自分発見プログラム」とキャリアパスポートとの関連を図って年間指導計画に位置付けたり、「互いのよさを認め合う活動」を学級活動だけでなく、児童会活動や行事等、特別活動の他の活動とも関連付けたりしていけるとよい。そうすることで、本研究での成果を更に高めていくことができると考える。

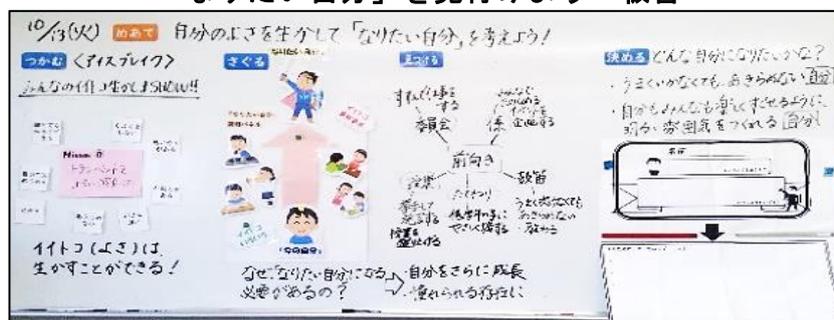
〈参考文献〉

- ・文部科学省(2018). 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編 東洋館出版社
- ・文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター(2020). 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 東洋館出版社
- ・文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター(2019). 『みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる 特別活動 小学校編』 文溪堂
- ・群馬県総合教育センター C&S 質問紙 URL: <https://www.me.center.gsn.ed.jp./index.php?id89>

資料1 第5、6学年 題材「自分発見プログラム」指導計画

過程	実施時間	主な学習活動	◎評価項目 【観点】(評価方法)
自分のイトコ、みいつけた!	学級活動	<ul style="list-style-type: none"> 「自分ってどういう人かな?」と考えて、「よさの一覧表」の中から、自分のよさを表す言葉に丸をつける。 友達と「イトコみいつけた」(よいところ探し)を行い、他者から見た自分のよさを知る。 初めに丸をつけたよさの一覧表に戻り、友達からもらったメッセージを反映させて、これまでは気付いていなかった自分のよさに気付く。 	◎自分自身を肯定的に受け止め、自己のよさについて理解している。 【知識・技能】 (自分発見プログラム BOOK・自分発見シート)
「なりたい自分」を見付けよう	学級活動	<ul style="list-style-type: none"> よさの生かし方を考え、自分のよさは様々な場面で色々な生かし方ができることを知る。 よさを生かすという視点をもって「なりたい自分」を意思決定する。 「なりたい自分」に向けて行動目標を立てる。 	◎「なりたい自分」について考え、意思決定している。 【思考・判断・表現】 (発言・自分発見プログラム BOOK・自分発見シート)
前半の実践 (事後1)	1週間	<ul style="list-style-type: none"> 「なりたい自分」に向けて立てた行動目標を実践する。 実践は、毎日記録する。 	◎意思決定したことに向けて実践している。 【思考・判断・表現】 (自分発見シート・観察)
中間振り返り (事後2)	朝学習	<ul style="list-style-type: none"> ペアの友達と、互いに見付けたがんばりやよさを伝え合う。 自分発見シートの実践記録と友達から見付けてもらったよさを振り返り、自分のよさや成長を自覚する。 振り返りを基に、後半の実践に向けて目標の再設定を行う。 後半の取組がよりよいものになるよう、友達とアドバイスし合う。 	◎実践を振り返り、よかったところ、改善点について気づき、目標を再設定している。 【主体的態度】 (自分発見シート・振り返りシート・話合いの観察)
後半の実践 (事後3)	1週間	<ul style="list-style-type: none"> 中間振り返りを経て再設定した目標を意識して実践する。 	◎中間振り返りで再設定した目標を実践している。 【思考・判断・表現】 (自分発見シート・観察)
最終振り返り (事後4)	朝学習	<ul style="list-style-type: none"> ペアの友達と、互いに見付けたがんばりやよさを伝え合う。 自分発見シートの実践記録と友達から見付けてもらったよさを振り返り、自分のよさや成長を自覚する。 これまでの取組を、今後の課題や継続した取組につなげられるように自分自身に向けてメッセージを書く。 	◎自分のよさや成長を自覚し、それをこれからの生活に生かす気持ちをもっている。 【主体的態度】 (自分発見シート・振り返りシート)

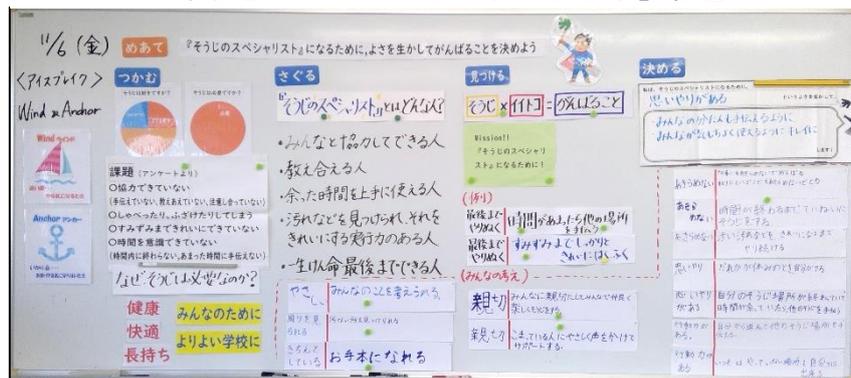
「なりたい自分」を見付けよう 板書



資料2 第5、6学年 題材「そうじのスペシャリストになろう」指導計画

過程	実施時間	主な学習活動	◎評価項目 【観点】(評価方法)
事前	朝学活	・アンケートを行い、最近の清掃の取組について、実態を調べる。	◎これまでの清掃への取り組みを振り返り、学習への見通しをもとうとしている。 【主体的態度】(アンケート)
そうじのスペシャリストになろう	学級活動	・よさをそうじの場面でどのように生かすことができるのかを考え、話し合う。 ・グループで意見交換し「そうじのスペシャリスト」に向けてどのよさを生かして行動するかを意思決定する。 ・「そうじのスペシャリスト」に向けて行動目標を立てる。	◎そうじの意義を理解し、「そうじのスペシャリスト」について考え、意思決定している。 【知識・技能】 【思考・判断・表現】 (発言・自分発見プログラムBOOK・自分発見シート)
前半の実践 (事後1)	1週間	・「掃除のスペシャリスト」に向けての行動目標を実践する。 ・実践は、毎日記録する。	◎意思決定したことに向けて実践している。 【思考・判断・表現】 (自分発見シート・観察)
中間振り返り (事後2)	朝学習	・ペアの友達と、互いに見付けたがんばりやよさを伝え合う。 ・自分発見シートの実践記録と友達から見付けてもらったよさを振り返り、自分のよさや成長を自覚する。 ・振り返りを基に、後半の実践に向けて目標の再設定を行う。 ・後半の取組がよりよいものになるよう、友達とアドバイスし合う。	◎実践を振り返り、よかったところ、改善点について気づき、目標を再設定している。 【主体的態度】 (自分発見シート・振り返りシート・話し合いの観察)
後半の実践 (事後3)	1週間	・中間振り返りを経て再設定した目標を意識して実践する。	◎中間振り返りで再設定した目標に向けて実践している。 【思考・判断・表現】 (自分発見シート・観察)
最終振り返り (事後4)	朝学習	・ペアの友達と、互いに見付けたがんばりやよさを伝え合う。 ・自分発見シートの実践記録と友達から見付けてもらったよさを振り返り、自分のよさや成長を自覚する。 ・これまでの取組を、今後の課題や継続した取り組みにつなげられるように自分自身に向けてメッセージを書く。	◎自分のよさや成長を自覚し、それをこれからの生活に生かす気持ちをもっている。 【主体的態度】 (自分発見シート・振り返りシート)

「そうじのスペシャリストになろう」板書



資料3 「自分発見プログラム」 ワークシート ステップ1 ワークシート

年 組 番
《名前》

2. 自分のイトコ、みつけた！

自分のよさって、どんなところかな。
自分にあてはまるものを選んで、丸でかこもう。

たよりになる	聞き上手	話し上手	誰とも仲良くてできる	人の気持ちがわかる
協力的	顔が見えやすい	親切	あきらめない	前向き
集中力がある	くよくよしない	何にでも興味がある	がまん強い	最後までやりぬく
責任感がある	何にでもチャレンジできる	自分で決められる	よく気が付く	きちんとしている
行動力がある	やさしい	すなお	慎重	負けずらい
元気がいい	明るい	おだやか	手先が器用	頭がいい
がんばりや	勇気がある	思いやりがある	堂々としている	たくましい
しっかり者	まじめ	正直	さっぱりしている	おもしろい

今日の振り返り
★「イトコみつけた」の感想を書きましょう。

年 組 番
《名前》

あなたの！
イトコみつけた！

より	より	より
より	さんへ	より
より	より	より

ステップ2 ワークシート

年 組 番
《名前》

4. 「なりたい自分」を見つけよう！

①「伸ばしたい」「生かしたい」よさを考えてみよう。

「自分のイトコ」の中から、特に「伸ばしたい」「生かしたい」と思うよさはどれかな？3つ以内で決めてみてね。

選んだ理由は…

②選んだ「よさ」がどんな場面で生かせようか考えよう！
(真ん中の四角に選んだ「よさ」を書いたら、そこからウェビングマップを広げよう！)

選んだ「よさ」

年 組 番
《名前》

③「なりたい自分」を決めて、努力することを考えよう！

名前

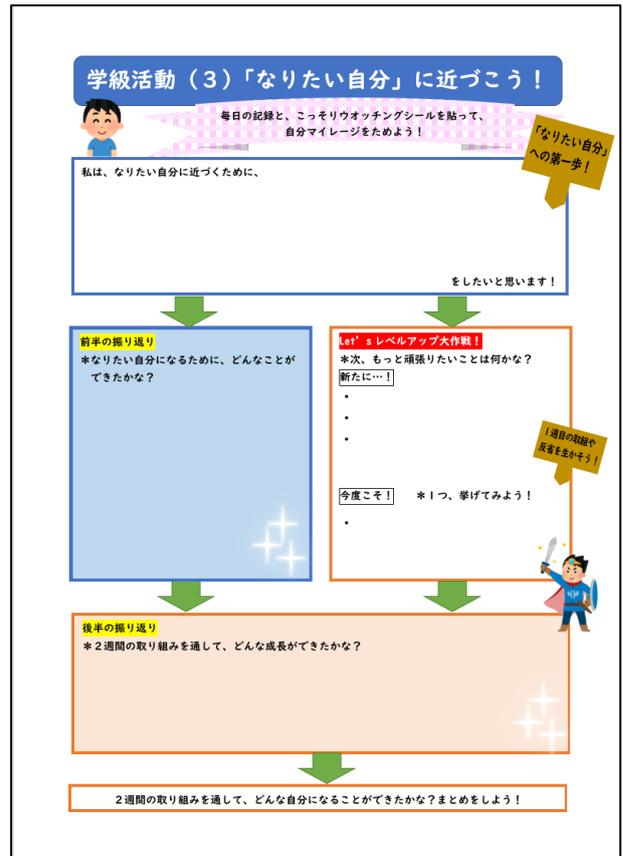
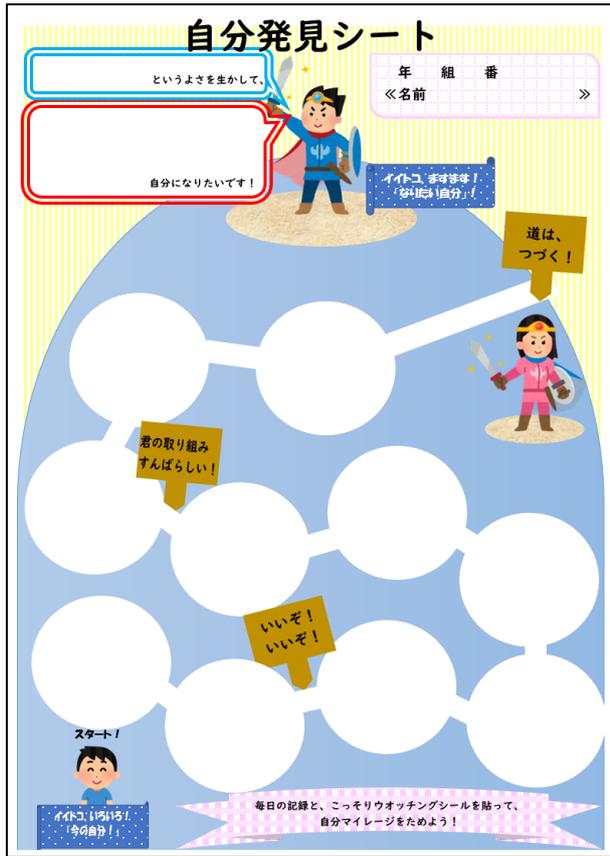
というよさを生かして、

自分になりたいてす！

「なりたい自分」に近づくために、「やってみるぞ！」と思うことを書こう。

振り返り ★今日の授業の感想を書きましょう。

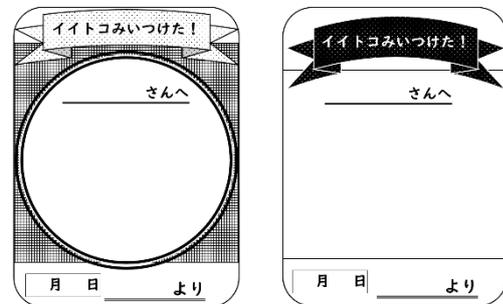
ステップ3で使用した「自分発見シート」および「振り返りシート」



資料4 [手立て2] 互いのよさを認め合う活動の実践



「イトコみつけた」掲示の様子



「イトコみつけた」カード



「キラリ、とっておきの一枚」 掲示の様子